



学校だより

平成29年1月10日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.464

過ちで改めざる、これを過ちという

校長 谷田 弘子

あけまして

おめでとうございます

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

田柄第二小学校 職員一同

新しい年、平成29年(2017年)の幕が開きました。18日間の長い冬休みはいかがだったでしょうか。今年は酉年、羽ばたく飛躍の年と言われています。今年度も残り3ヶ月。一年のしめくくりの時期になりました。子供たちと共に有終の美を飾れるように職員一同がんばりたいと思います。

* * * * *

「過ちで改めざる、これを過ちという」という言葉があります。「過ち」という言葉の意味は、「ついうっかり失敗したり、間違ったりしてしまうこと」を言います。そして、「改めざる」という意味は、「改めないこと」、つまり「うっかり失敗したことや間違えてしまったことを二度としないように改めようとしなくて、直そうとしないこと」の意味です。この言葉は、中国で生まれた孔子という人が言った言葉です。孔子はどのような人であるかを紹介しながら、この言葉の意味について、さらに詳しく説明します。

孔子の生きていたのは、今から2500年以上前のことです。孔子は、人としての生き方について深く考え、人としての礼儀や態度、思いやりの心などをとても大事にした人でした。そして、政治に対しても、政治をする人自身が礼儀や態度、思いやりのある心づかいなどを大切にして、道徳を重んじた政治を行

うべきだと考え、中国の各地を回って、それぞれの国の政治を行う人たちに考えを広めようと努めました。しかし、その願いは、なかなか実現してもらえませんでした。思いが果たせなかった孔子は、自分が生まれた魯(ろ)という国に戻り、たくさんの弟子たちを教え育てることに専念しました。

そのようなある日、孔子は弟子たちに、「人はいろいろと失敗してしまうものだ。それは仕方がないことである。だから、そのような失敗を二度としないように改めていくことが、人としてとても大切な生き方なのである。しかし、失敗をしたにもかかわらずそれを反省しようとせず、直そうともしなければ、そのような考え方や態度こそが、人としての生き方の大きな過ちなのである。」と教えたのです。そのときの言葉が、この「過ちで改めざる、これを過ちという」という言葉だったのです。

ところで、最近、ついうっかり間違えたり、失敗したりするようなことがあったとき、すぐに「ごめんなさい」「すみませんでした」と謝ることができない児童が目立つようになりました。また、二度と同じようなことはしないように気を付けようと努力せず、言い逃れをしたり、ごまかしたりすることもあります。ついうっかり間違えたり失敗したりしたときは、恥ずかしい気持ち起きるかも知れませんが、勇気をもって、すぐに認めて謝るとともに、二度とそのようなことをしないように努力する人に育ってほしいと願っています。人としての生き方を大人も子供も見直すよい機会にしたい新年です。